



平成19年3月期 第3四半期業績の概況(連結)

(平成18年4月1日～平成18年12月31日)

平成19年1月31日

上場会社名 JFEホールディングス株式会社 (コード番号:5411 東証第1部、大証第1部、名証)

(URL <http://www.jfe-holdings.co.jp/>)

代表者 役職名 代表取締役社長 氏名 数 土 文 夫

問合せ先責任者 役職名 総務部広報室長 氏名 林 周一郎 TEL(03)3217-4030

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有

(内容)

減価償却費の計上、税金費用の計算等について、一部簡便的な方法を採用しております。

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有

(内容)

エンジニアリング事業の請負工事に係る収益の計上は、従来、工期1年超、請負金額5億円以上の工事については工事進行基準、その他の工事については工事完成基準によっておりましたが、より適正な期間損益計算を行うことを目的として、当四半期(平成18年4月1日～平成18年12月31日)より新たに受注した工期1年超、請負金額1億円以上の工事について、工事進行基準を適用することに変更いたしております。

なお、この変更による当四半期(連結)の売上高、営業利益、経常利益への影響は軽微であります。

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有

(内容)

連結 (新規) 6社 (除外) 7社 持分法 (新規) 4社 (除外) 2社

2. 平成19年3月期第3四半期の業績概況(平成18年4月1日～平成18年12月31日)

経営成績(連結)の進捗状況

(注)金額は百万円未満を切り捨てております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年3月期第3四半期	2,280,816	5.4	345,143	7.6	354,430	6.4	209,117	17.1
18年3月期第3四半期	2,164,608	-	373,619	-	378,523	-	252,379	-
(参考)18年3月期	3,098,374		517,171		517,313		325,996	

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
19年3月期第3四半期	358.28	340.64
18年3月期第3四半期	430.84	409.77
(参考)18年3月期	555.02	527.86

(注)売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率。

3. セグメント情報

(事業の種類別セグメント情報)

当四半期(平成18年4月1日～平成18年12月31日)

(単位:百万円)

	鉄鋼事業	エンジニアリング事業	都市開発事業	LSI事業	計	消去又は全社	連結
売上高	2,106,265	157,329	11,293	33,670	2,308,557	27,741	2,280,816
営業利益	348,992	5,466	227	891	344,644	499	345,143
経常利益	352,859	1,904	154	680	355,597	1,167	354,430

前年同四半期(平成17年4月1日～平成17年12月31日)

(単位:百万円)

	鉄鋼事業	エンジニアリング事業	都市開発事業	LSI事業	計	消去又は全社	連結
売上高	1,980,674	161,942	12,165	33,680	2,188,461	23,853	2,164,608
営業利益	381,337	10,127	185	1,601	372,996	623	373,619
経常利益	382,327	5,642	131	1,632	378,448	75	378,523

[経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

鉄鋼事業につきましては、国内需要が自動車、造船、産機等の製造業向けを中心に引き続き旺盛であることに加え、海外需要も堅調に推移しており、亜鉛、ニッケル等の金属類、スクラップの高騰はありますが、コスト削減の推進等により、グループ会社を含め、高水準の収益を確保し、昨秋公表した見通しに対して順調に進捗しております。

なお、西日本製鉄所(福山地区)におきまして、自動車用高級鋼板への対応を目的に建設していた第4溶融亜鉛めっきライン(Continuous Galvanizing Line : CGL)が、1月に稼動致しました。昨春の中国での合弁会社「広州FE鋼板有限公司」における新CGL稼動に引続き、高級鋼板の製造体制を強化するものであります。また、知多製造所におきましても、世界的なエネルギー分野の需要増大に対応した高級油井管(13Cr)の製造能力拡大工事を1月に完工しており、国内外での高級鋼材の需要増大に対する戦略投資を着実に実施しております。

エンジニアリング事業につきましては、依然として厳しい事業環境にありますが、コスト削減等の懸命な収益改善活動に取り組んでおります。なお、当事業の特性として売上が第4四半期に集中することによる業績の季節的変動があります。

都市開発事業につきましては、分譲マンションの引渡が第4四半期に集中することによる業績の季節的変動はあるものの、高品質で独自性の高いマンションの供給を中心に収益確保に努めております。

LSI事業につきましては、液晶パネル向け製品等を中心とした値引き要請が引き続き強く、厳しい状況下にあります。新規市場の開拓等、収益改善に積極的に取り組んでおります。

この結果、当四半期の売上高は22,808億円、経常利益は3,544億円、四半期純利益は2,091億円となりました。

[参考]

平成19年3月期の連結業績予想(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

今回、見直しは行っておりません。3月上旬に発表する予定です。